

Oracle® Reports

チュートリアル

10g リリース 2 (10.1.2)

部品番号 : B19374-01

2005 年 9 月

Oracle Reports チュートリアル, 10g リリース 2 (10.1.2)

部品番号 : B19374-01

原本名 : Oracle Reports Tutorial, 10g Release 2 (10.1.2)

原本部品番号 : B14364-01

原著者 : Ingrid Snedecor

原著者協力者 : Panna Hegde

原本協力者 : Vinayak Hegde, Rohit Marwaha, Ratheesh Pai, Vinodkumar Pandurangan, Rajesh Ramachandran, Vishal Sharma, Navneet Singh, Puvanenthiran Subbaraj, Philipp Weckerle

Copyright © 2003, 2004, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるとしてプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性ががあります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	iii
対象読者	iv
ドキュメントのアクセシビリティについて	iv
関連ドキュメント	iv
表記規則	v
前提条件	v
サポートおよびサービス	vi
1 チュートリアル概要	
1.1 チュートリアルのシナリオ	1-2
1.2 まとめ	1-3
2 レポートへのデータの追加	
2.1 Web ページのオープン	2-2
2.2 データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加	2-3
2.3 JSP ファイルでのレポートの保存	2-6
2.4 まとめ	2-6
3 Web レポートのソース・コードの確認	
3.1 Reports Builder での Web ソースの表示	3-2
3.2 JSP コードの検証	3-3
3.3 まとめ	3-3
4 Web レポートのレポート・ブロックの作成	
4.1 Web ページへのレポート・ブロックの追加	4-2
4.2 まとめ	4-4
5 レポート・ブロックのソース・コードの確認	
5.1 Reports Builder での Web ソースの表示	5-2
5.1.1 ヘッダー・タグとボディの確認	5-2
5.1.2 rw:foreach タグとボディの確認	5-2
5.2 JSP コードの検証	5-2
5.3 まとめ	5-2

6 Web レポートのグラフの作成

6.1	Reports Builder でのレポートのソースのオープン	6-2
6.2	グラフ・ウィザードを使用したグラフの作成	6-2
6.3	新しいグラフを含むレポートの保存	6-4
6.4	まとめ	6-4

7 グラフのソース・コードの確認

7.1	Reports Builder でのソースの表示	7-2
7.2	rw:graph タグの確認	7-2
7.3	まとめ	7-3

8 用紙レポートの出力

8.1	データ・モデルに基づいた用紙レポートの出力	8-2
8.2	ペーパー・デザイン・ビューでのレポートの変更	8-3
8.3	まとめ	8-5

A クイック・リファレンス・ガイド

A.1	データ・ウィザードのエン트리	A-2
A.2	レポート・ブロックのエン트리	A-2
A.3	グラフ・ウィザードのエン트리	A-2
A.4	レポート・ウィザードのエン트리	A-3

B ツール・パレットとツールバーのリファレンス

B.1	メイン・ツールバー	B-2
B.2	データ・モデル・ビューのツール・パレット	B-3
B.3	ペーパー・レイアウト・ビューのツール・パレット	B-4

用語集

索引

はじめに

このマニュアルでは、Oracle Reports の使用を開始する手順を説明し、Web やペーパー出力を使用してデータを公開する方法も紹介します。

対象読者

このチュートリアルは、Oracle Reports を初めて使用するユーザーや、Oracle Reports を理解していて、さらに JSP ベースの Web レポート作成について詳しく知りたいというユーザーを対象にしています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

JAWS (Windows のスクリーン・リーダー) は、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

関連ドキュメント

Oracle Reports の詳細は、次のリソースを参照してください。

- 『Oracle Reports レポート作成ガイド』
- 『Oracle Application Server Reports Services レポート Web 公開ガイド』
- Oracle Reports のオンライン・ヘルプ。これには、次の 2 つの方法でアクセスできます。
 - Reports Builder
 - 「ヘルプ」 → 「ヘルプ・コンテンツ」を選択します。
 - ダイアログ・ボックスで、「ヘルプ」をクリックするか [F1] を押します。
 - プロパティ・インスペクタでプロパティをクリックし、[F1] を押すとプロパティのヘルプが表示されます。
 - Oracle Technology Network (OTN) の Oracle Reports 10g のページ (<http://www.oracle.com/technology/products/reports/index.html>) :
 - 「Resources」で「Hosted Online Help」をクリックすると、Oracle Reports のオンライン・ヘルプ最新版が Web ベースで表示されます。
 - 「News」で「Oracle Reports Online Help Update」をクリックすると、Reports Builder 内の Oracle Reports のオンライン・ヘルプが、最新版に置き換えられます。ヘルプ・ファイルの置換方法については、ダウンロード・ファイルの `readme.txt` を参照してください。

表記規則

本文では、次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、パラグラフ内のコマンド、URL、例に記載されているコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

前提条件

このチュートリアル例では、Oracle Database と HTML テンプレートで提供される Human Resources (人事管理) のサンプル・スキーマを使用します。Oracle Reports では、入力用の SQL が記述されたテキスト・ファイルや、各章で作成する JSP も提供されます。

Oracle Technology Network (OTN) の Oracle Reports 10g のページ (<http://www.oracle.com/technology/products/reports/index.html>) から「Getting Started with Oracle Reports」をクリックします。インデックスに移動し、「Examples」をクリックします。その先にあるページには、『Oracle Reports チュートリアル』へのリンクがあります。ファイルは、製品付属のドキュメントの CD にも収録されています。ファイルは、ローカル・ディレクトリ (d:\¥Reports_Tutorial など) にコピーすることをお勧めします。

サンプル・スキーマ

このチュートリアルは、サンプル・スキーマの Human Resources セクションに含まれるデータに基づいています。このサンプル・スキーマは、Oracle Database で提供されます。

Web レポートの表示

Web ベースのレポートを作成するには、コンピュータに Web ブラウザがインストールされている必要があります。最小限の推奨条件は、次のとおりです。

- Microsoft Internet Explorer 4.x 以降

または

- Netscape Communicator 4.x 以降

Web ソースの表示

Reports Builder で JSP レポートの Web ソースを表示できますが、このチュートリアルでは、テキスト・エディタで Web ソースを分析する方法も説明します。メモ帳などのテキスト・エディタを使用してください。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

オラクル社カスタマ・サポート・センター

オラクル製品サポートの購入方法、およびオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

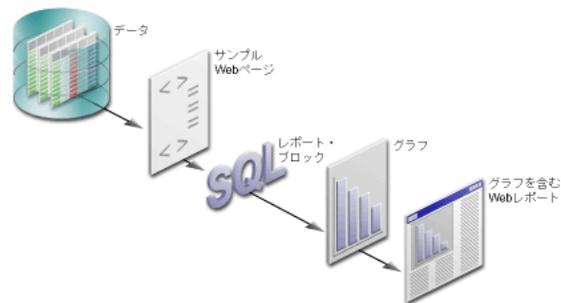
チュートリアルの概要

このチュートリアルでは、ユーザーが My Company という会社の開発者であると想定しています。あるコンテンツを会社のイントラネットに公開するように要請されています。各支店の人事管理者がそのデータをどこからでも参照できるようにする必要があります。この場合、会社のテンプレート（HTML ファイル）を使用して、データを Web 上で見やすくする必要があります。同時に、人事管理者がレポートを印刷できるようにする必要があります。

このチュートリアルでは、各部門の従業員給与に関して必要な情報を表示する Web のレポートを JavaServer Pages (JSP) を使用して作成します。また、人事管理者がデータの概要を参照できるようにグラフも作成します。チュートリアルの最後では、同じデータ・モデルに基づいて用紙レポートを出力する方法を説明します。

図 1-1 は、チュートリアルの最初の部分の概要を示します。

図 1-1 チュートリアルの概要 : Web レポートの作成

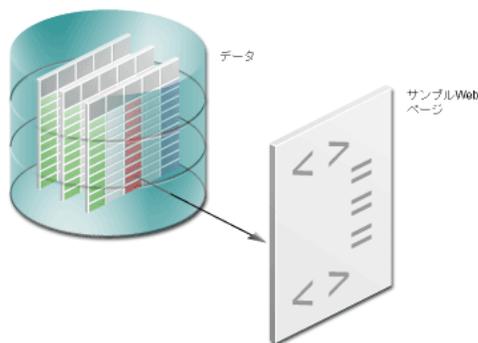


1.1 チュートリアルのシナリオ

各章の内容は、次のとおりです。

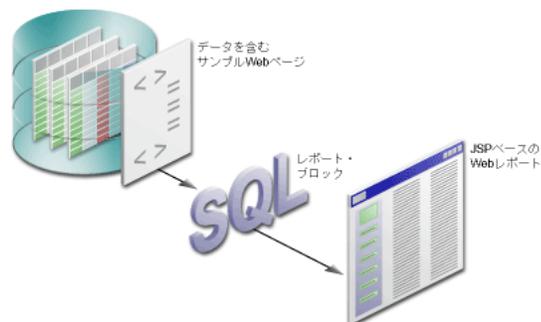
1. 単純な HTML が記述された Web ページ（オラクル社から提供）をオープンし、レポートのデータ・モデルを作成します。このモデルでは、サンプル・データ・ソースからレポートにデータを取り込みます（第2章「レポートへのデータの追加」）。この Web ページには、My Company のルック・アンド・フィールのテンプレートが含まれます。

図 1-2 HTML ページへのデータの追加



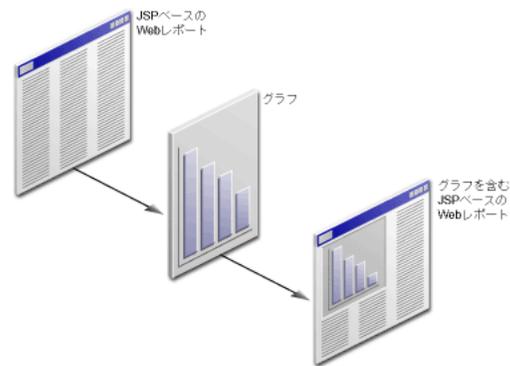
2. 第3章「Web レポートのソース・コードの確認」では、作成したレポートを確認して、第2章「レポートへのデータの追加」で実行した内容、およびサンプル Web ページへの追加内容を分析し、サンプル Web ページに対して Reports Builder で行われた内容を把握します。提供されたサンプル Web ページと、作成された JSP ベースの Web ページを比較できます。また、データ・モデルが Reports Builder でどのように表示され、XML ではどのように表示されるかを確認できます。
3. 第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」では、レポート・ウィザードを使用して JSP にレポート・ブロックを追加し、単純な JSP ベースの Web レポートを Web ブラウザに生成します。

図 1-3 JSP ベースの Web レポート用のレポート・ブロックの作成



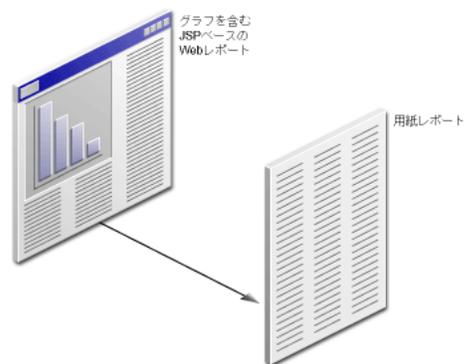
4. 第5章「レポート・ブロックのソース・コードの確認」では、レポートの Web ソースを分析して、レポート・ブロックがどのように JSP ベースの Web レポートに挿入されたかを確認します。ここでも、XML コードを調べ、ソース・コードがどのように変更されたかを確認できます。
5. 第6章「Web レポートのグラフの作成」では、グラフ・ウィザードを使用して JSP にグラフを追加し、完全な JSP レポートを Web ブラウザに生成します。

図 1-4 JSP ベースの Web レポートへのグラフの追加



6. 第7章「グラフのソース・コードの確認」では、グラフを作成する際に Reports Builder で Web ソースに追加された新しいコードを確認します。
7. 第8章「用紙レポートの出力」では、JSP ベースの Web レポートで作成したのと同じデータ・モデルとレイアウトを使用して、用紙レポートを出力します。

図 1-5 JSP ベースの Web レポートのデータ・モデルからの用紙レポートの出力



1.2 まとめ

このチュートリアルの内容について理解したら、第2章「レポートへのデータの追加」に進み、データ・ウィザードを使用してレポートのデータ・モデルを作成する方法を学習します。

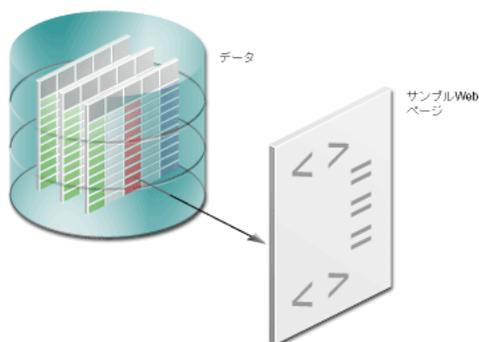
レポートへのデータの追加

予想完了時間：15分

会社の人事管理のために Web レポートの作成を必要とするシナリオについて検討します。この Web レポートでは、部門内の各従業員の給与情報を表示する必要があります。会社のロゴやカラーに対応した HTML ページはすでに用意されています。このページに必要な情報を追加する必要があります。

この章では、[図 2-1](#) に示すように、Reports Builder のデータ・ウィザードを使用して既存の HTML ページにデータを追加する方法を説明します。この章の最後に、Web レポートでデータを使用可能にするデータ・モデルが作成されます。

図 2-1 HTML ページへのデータの追加



2.1 Web ページのオープン

この項では、emprev.htm という名前の提供された Web ページ・テンプレートをオープンする方法を説明します。まず、テンプレートの内容を確認できるように、Web ブラウザでこの Web ページをオープンします。

注意： このファイルがない場合、「はじめに」の章にある「[前提条件](#)」を参照してください。

Web ブラウザでサンプル HTML ページをオープンするには

- Web ブラウザ (Netscape または Internet Explorer) で、「ファイル」→「開く」を選択し、emprev.htm に移動します。emprev.htm ファイルは、このチュートリアルで提供されているサンプル・ファイルです。

Reports Builder で既存の HTML ページをオープンするには

1. Reports Builder を起動します。

注意： UNIX を使用している場合は、Reports Builder がインストールされているディレクトリに移動し、rwbuilder.sh を実行します。

2. 「ようこそ」ダイアログ・ボックスで、「既存レポートを開く」をクリックし、「OK」をクリックします。
3. 「開く」ダイアログ・ボックスで、チュートリアル・サンプル・ファイルが格納されたフォルダ (d:\¥Reports_Tutorial など) に移動します。
4. emprev.htm ファイルを検索し、「開く」をクリックします。

EMPREV レポートがオブジェクト・ナビゲータで表示されます。

図 2-2 既存の HTML ページが表示されているオブジェクト・ナビゲータ



2.2 データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加

レポートを作成する場合、まず、レポートで使用するデータを選択して、データ・モデルを構築する必要があります。

この項では、データ・ウィザードを使用して、Web レポート用にデータ・モデルを構築する手順について説明します。このデータ・モデルによって、サンプル・スキーマのデータをレポートで使用できるようになります。

既存の HTML ページにデータを追加するには

1. データ・ウィザードをオープンして、レイアウトを定義し、データ・モデルを追加します。
 - a. オブジェクト・ナビゲータで、「データ・モデル」ノードをダブルクリックします。
 - b. データ・モデル・ビューで、キャンバスを右クリックし、ポップアップ・メニューから「データ・ウィザード」を選択します。
2. 「ようこそ」ページが表示される場合は、「次へ」をクリックします。
3. 「問合せ名」ページで、「次へ」をクリックして、デフォルト名を受け入れます。
4. 「データ・ソース」ページで、「SQL Query」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

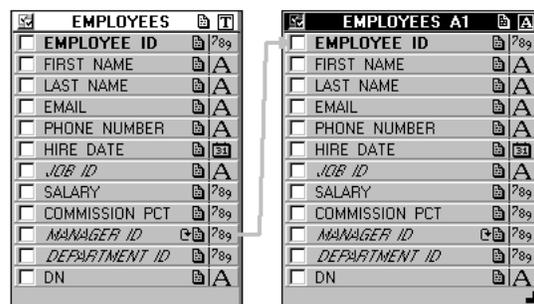
注意：「データ・ソース」ページで、レポートに使用するデータ・ソースを任意に選択できます。プラグgable・データ・ソースの使用の詳細は、Oracle Reports のオンライン・ヘルプを参照してください。

5. 「データ」ページで、次のいずれかを実行できます。
 - テキスト・エディタで tutorial_sql.txt ファイルをオープンし、問合せをコピーして、「SQL 問合せ文」ボックスに貼り付けます。ステップ 16 に進みます。
 - Query Builder の使用方法について学習します。ステップ 6～15 に進みます。
6. Query Builder を使用するには、「Query Builder」をクリックします。

注意： 提供されたサンプル・スキーマを含むデータベースの接続情報がわからない場合、管理者に連絡してください。

7. Query Builder で、EMPLOYEES 表をダブルクリックします。
8. 再び、EMPLOYEES 表をダブルクリックし、「閉じる」をクリックします。

図 2-3 Query Builder に表示されている EMPLOYEES 表



Query Builder では、EMPLOYEES 表が EMPLOYEES と EMPLOYEES A1 として表示されます。EMPLOYEES の MANAGER ID と EMPLOYEES A1 の EMPLOYEE ID のリンクは、EMPLOYEES 表の制約によって自動的に作成されます。

注意： 列名には太字で表記されているものと、イタリックで表記されているものがあります。太字で表記されている列名は主キー、イタリックで表記されている列名は外部キーを示します。

9. **EMPLOYEES** 表で、次のフィールドのチェックボックスを選択します（次の順番どおりにフィールドを選択する必要があります）。

- EMPLOYEE_ID
- FIRST_NAME
- LAST_NAME
- HIRE_DATE
- JOB_ID
- SALARY
- DEPARTMENT_ID

10. **EMPLOYEES A1** 表で、次のフィールドのチェックボックスを選択します。

- EMPLOYEE_ID
- FIRST_NAME
- LAST_NAME

11. 「OK」をクリックします。

12. 「SQL 問合せ文」テキスト・ボックスに、Query Builder で生成した問合せが表示されます。その内容は次のようになります。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID
, EMPLOYEES.FIRST_NAME,EMPLOYEES.LAST_NAME
, EMPLOYEES.HIRE_DATE
, EMPLOYEES.SALARY
, EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID
, EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID
, EMPLOYEES_A1.JOB_ID
, EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
```

13. 部門 100 の従業員のみに対してデータを取り出すには、AND 句を追加します。この場合、問合せは次のようになります（太字は、新しいコードを示します）。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID
, EMPLOYEES.FIRST_NAME,EMPLOYEES.LAST_NAME
, EMPLOYEES.HIRE_DATE
, EMPLOYEES.SALARY
, EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID
, EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID
, EMPLOYEES_A1.JOB_ID
, EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
AND EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID=100
```

14. ここで、従業員名で姓を先に表示し、レポートを見やすくします。

EMPLOYEES.FIRST_NAME および EMPLOYEES.LAST_NAME の各フィールドを、emp_name という別名で連結します。

問合せの行は、次のようになります。

```
, EMPLOYEES.LAST_NAME ||', '|| EMPLOYEES.FIRST_NAME emp_name
```

15. EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME および EMPLOYEES_A1.LAST_NAME の各フィールドを、mgr_name という別名で連結します。

問合せの行は、次のようになります。

```
, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME ||', '|| EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME mgr_name
```

16. 問合せが正しいことを確認します。問合せ全体は、次のようになります。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID,
EMPLOYEES.LAST_NAME||', '|| EMPLOYEES.FIRST_NAME emp_name, EMPLOYEES.HIRE_DATE,
EMPLOYEES.JOB_ID, EMPLOYEES.SALARY, EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID, EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID,
EMPLOYEES_A1.LAST_NAME||', '|| EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME mgr_name
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
AND EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID = 100
```

注意： 問合せが正しいことを確認するには、提供されたサンプル・ファイルの tutorial_sql.txt をオープンします。

17. 「次へ」をクリックします。

18. 生データが選択されたので、これを部門管理者名ごとのグループに編成します。

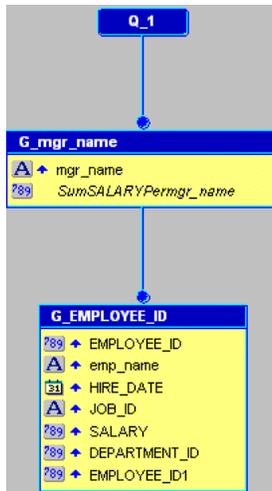
「グループ」ページで、左の列の「MGR_NAME」フィールドをクリックし、右矢印をクリックして、フィールドを「グループ・フィールド」リストに移動し、「次へ」をクリックします。

19. データの一部を計算します。「合計」ページに、一般的に使用される計算の一部が表示されます。

「合計」ページで、左の列の「SALARY」をクリックし、「合計」をクリックして、「合計」リストの「Salary」列の合計を表示します。

20. 「終了」をクリックします。

図 2-4 レポートのデータ・モデル・ビュー



注意： データ・モデル・ビューの左上の部分には、レポートレベルのサマリー列が表示されます。ただし、この図では示されていません。

2.3 JSP ファイルでのレポートの保存

Reports Builder では、レポートを様々な形式で保存できます。この例では JSP ベースの Web レポートを作成しているため、レポートを JSP 形式で保存します。

JSP でレポートを保存するには

1. オブジェクト・ナビゲータでレポートを選択し、「ファイル」→「別名保存」を選択します。
2. 「保存」ダイアログ・ボックスで、レポート名を `emprev_自分のイニシャル` に変更し、タイプを「レポート JSP (.jsp)」に変更して、「保存」をクリックします。

注意： 提供されたファイルを上書きしないように、必ず自分のイニシャルを挿入してください。JSP は、Web へのレポート公開に使用する Reports Builder の主要なテクノロジーなので、レポートを JSP 形式で保存すると、このチュートリアル後の章での使用に備えることができます。

3. 「ファイル」→「閉じる」を選択します。

2.4 まとめ

お疲れ様でした。これでデータ・モデルが作成され、Web ページにレポートを組み込むことができます。この章では、次の手順を学習しました。

- Reports Builder で、既存の Web ページ (HTML ファイル) をオープンする。
- データ・ウィザードで、レポートのデータを指定する。
- Query Builder で、データを選択する。
- レポートを JavaServer Pages (JSP) で保存する。

作業を確認するには、第 3 章「Web レポートのソース・コードの確認」に進みます。あるいは、第 4 章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」に進み、レポートの作成を続けます。

Web レポートのソース・コードの確認

予想完了時間：5分

第2章「レポートへのデータの追加」では、Web ページにデータ・モデルを追加しました。この章では、ウィザードで入力したエントリや作成したデータ・モデル、JSP および XML コードの関連を説明します。

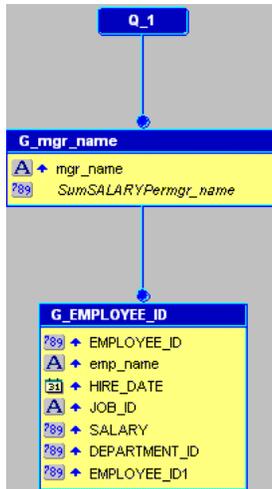
また、Reports Builder で JSP に挿入されたカスタム JSP タグも調べます。このカスタム JSP タグを使用すると、データ・ウィザードで選択したデータを、JSP ベースの Web レポートに追加できます。

3.1 Reports Builder での Web ソースの表示

Reports Builder でレポートの Web ソースを表示するには

1. Reports Builder で、レポート `emprev_自分のイニシャル.jsp` がオープンしていることを確認します。
2. オブジェクト・ナビゲータで、「データ・モデル」ノードをダブルクリックし、このレポートのデータ・モデルを表示します。データ・モデルが次のように表示されます。

図 3-1 レポートのデータ・モデル・ビュー



3. データ・モデル・ビューで、ツールバーの「Web ソース」アイコンをクリックします。

注意： オブジェクト・ナビゲータのレポート名の下にある「Web ソース」アイコンをダブルクリックすることもできます。

Web ソース・ビューにソース・コードが表示されます。このコードをスクロールし、次の内容を確認します。

- @ taglib 行は、`rw` で始まるすべてのタグのレポート JSP ライブラリを参照します。`<%...%>` タグは JSP 対応タグをマークし、JSP カスタム・タグ・ライブラリを示します。
- 開始の `rw:report` タグと、開始および終了の `rw:objects` タグを確認します。
- `rw:report` タグは、ライブラリ・コールの後に表示されます。レポートでは、すべての Reports Builder JSP タグが開始および終了の `rw:report` タグの間に表示される必要があります。終了の `rw:report` タグが、使用するデータの前にあると、レポートは空白になります。
- `rw:objects` タグは、Web ソースに表示されます。開始および終了タグの間には、テキストが何も表示されません。ファイル・システムにレポートを保存すると、Reports Builder でデータ・モデルや他の要素が XML 言語にエンコードされ、これらのタグの間にデータ・モデルが配置されます。Reports Builder では、XML の整合性を維持するため、これらのタグ間の XML コードは表示されません。

注意： XML や JSP の使用に慣れているユーザー以外は、このビューの (`rw:objects`) タグ間に何も入力しないでください。

3.2 JSP コードの検証

この章を終了し、JSP が正しいことを確認する場合は、`emprev.jsp` ファイルをオープンしてください。このファイルは、作成したチュートリアル・サンプル・ディレクトリにあります。

3.3 まとめ

お疲れ様でした。これで、[第2章「レポートへのデータの追加」](#)で Web レポートに追加したデータの確認が終わりました。Reports Builder の Web ソース・ビューでソース・コードを表示する方法と、次のカスタム JSP タグについて学習しました。

- `rw:report`
- `rw:objects`

レポート・ブロックを追加し、Web レポートを完成するには、[第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」](#)に進みます。

Oracle Reports JSP タグの詳細は、Oracle Reports のオンライン・ヘルプを参照してください。

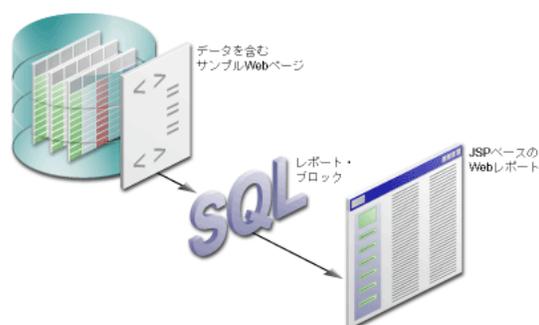
Web レポートのレポート・ブロックの作成

予想完了時間：15分

データ・セットを作成したので、レポート用にデータをフォーマットし、従業員に関する最新情報を管理者に提供します。この場合、レポート・ブロックを作成し、それをレポートに追加できます。このレポート・ブロックは、レポートを実行するたびに、第1章で指定した問合せを使用してデータを動的に取り込み、レポートのデータをフォーマットします。

この章の手順では、図4-1に示すように、Web ページにレポート・ブロックを追加する方法を説明します。

図 4-1 JSP ベースの Web レポート用のレポート・ブロックの作成



4.1 Web ページへのレポート・ブロックの追加

第3章「Web レポートのソース・コードの確認」の手順を完了している場合は、Reports Builder でソースをすでにオープンしているはずです。その場合は、ステップ1を省略できます。この項では、第1章で指定したデータをレポート・ウィザードを使用してフォーマットし、そのデータをレポートに動的に取り込む方法を説明します。

レポート・ブロックを追加するには

1. Reports Builder で、レポート (emprev_自分のイニシャル.jsp) がオープンしていることを確認します。

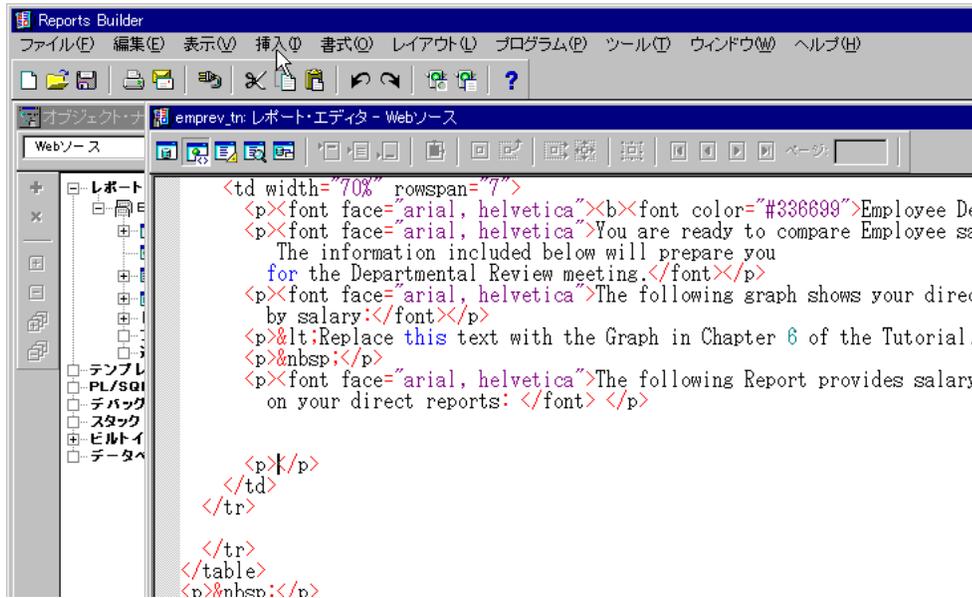
注意： 第1章で emprev_自分のイニシャル.jsp を作成していない場合は、emprev.jsp ファイルをオープンしてください。

2. オブジェクト・ナビゲータで、emprev_自分のイニシャルにある「Web ソース」ノードをダブルクリックします。
3. Web ソース・ビューで、「編集」→「検索と置換」をクリックし、次のテキストを見つけて削除します。このテキストは2箇所があるので注意してください。

Replace this text with the Report block in Chapter 4 of the tutorial.

4. テキストを削除した場所にカーソルがあることを確認し、「挿入」→「レポート・ブロック」を選択して、レポート・ウィザードを表示します。

図 4-2 Web ソースへのレポート・ブロックの挿入



5. ウィザードの最初のページで、レポートに「My Team's Salaries」というタイトルを付けます。
6. 「グループ上」ラジオ・ボタンを選択し、「次へ」をクリックします。
7. 次のように、データをフォーマットして従業員名が下の列に表示されるようにします。
「グループ」ページで、「G_EMPLOYEE_ID」をクリックし、「下」をクリックして、「表示グループ」リストにグループを移動します。

注意： 第2.2項「データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加」に記載されている正しい順番でフィールドを選択しない場合は、このグループが表示されないことがあります。その場合は、tutorial_sql.txt ファイルから「SQL 問合せ文」ボックスに SQL テキストをコピーします。

8. 「次へ」をクリックします。
9. 「フィールド」ページで「>>」ボタンをクリックし、「使用可能フィールド」にあるすべてを「表示フィールド」リストに移動します。
10. 「表示フィールド」リストで、「EMPLOYEE_ID1」フィールドをクリックし、「<」ボタンをクリックして「使用可能フィールド」リストに戻します。その後、「次へ」をクリックします。
11. 「ラベル」ページで、「次へ」をクリックします。
12. 「テンプレート」ページで、「事前定義テンプレート」が選択されていることを確認します。
13. 「Beige」テンプレートが選択されていることを確認し、「終了」をクリックします。
レポート・ウィザードでは、フォーマットしたデータが Web ページで表示されるように、カスタム JSP タグを含む HTML が生成されます。
14. 「ファイル」→「別名保存」を選択します。
15. 「保存」ダイアログ・ボックスで、名前を emprev_自分のイニシャル.jsp に変更し、「保存」をクリックします。
16. ツールバーの「Web レイアウトを実行」ボタンをクリックして、Web ブラウザでレポートを実行し、表示します。

注意：

- デフォルトのブラウザとして Netscape 7.0 を使用し、ブラウザにレポートが表示されない場合は、レジストリキー HKEY_CURRENT_USERS¥Software¥Oracle¥Toolkit¥Tkbrowser をブラウザのデフォルトの場所に設定します。BrowserName および BrowserPath のキーに正しい値が指定されていることを確認してください。たとえば、BrowserName=Netscape 7、BrowserPath=C:¥Program Files¥Netscape¥Netscape¥Netscp.exe になります。
 - 「Web レイアウトを実行」に失敗し、major.minor バージョン関連のエラーが発生する場合は、環境変数 CLASSPATH または REPORTS_CLASSPATH を次のように削除して更新する必要があります。oc4j.jar ファイルパスで 9.0.x ORACLE_HOME の指定を削除します (oc4j.jar ファイルパスでは 10g リリース 2 (10.1.2) ORACLE_HOME のみを指定してください)。
-

レポートは、次のように表示されます。

図 4-3 レポート・ブロックを含む JSP ベースの Web レポート

My Web Page

Department Salaries

Employee Details

The information below shows your employees' salaries, and will prepare you for the Departmental Review meeting.

The following graph shows your direct reports by salary:

Replace this text with the Graph in Chapter 6 of the Tutorial.

The following report provides salary details on your direct reports:

Employee Id	Emp Name	Hire Date	Job Id	Salary	Department Id
109	Faviet, Daniel	16-AUG-94	FL_ACCOUNT	9000	100
110	Chen, John	28-SEP-97	FL_ACCOUNT	8200	100
111	Siama, Ismael	30-SEP-97	FL_ACCOUNT	7700	100
113	Popp, Luis	07-DEC-99	FL_ACCOUNT	6900	100
112	Urman, Jose Manuel	07-MAR-98	FL_ACCOUNT	7800	100
108	Greenberg, Nancy	17-AUG-94	FL_MGR	12000	100
				Total: 51600	

注意： Reports Builder で JSP をオープンして、Web に対して実行しても、`empрева.jsp` ファイルを実行できます。

4.2 まとめ

お疲れ様でした。これで、Web レポートにレポート・ブロックが追加されました。この章では、次の手順を学習しました。

- レポート・ブロックを作成する。
- JSP ベースの Web レポートの HTML ページにレポート・ブロックを追加する。

結果を確認するには、第 5 章「レポート・ブロックのソース・コードの確認」に進みます。あるいは、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」に進み、レポートにグラフを追加します。

レポート・ブロックのソース・コードの確認

予想完了時間：5分

第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」では、JSP ベースの Web レポートにレポート・ブロックを追加しました。この章では、レポート・ブロックに追加するソース・コードについて説明します。

5.1 Reports Builder での Web ソースの表示

Web ソースを表示するには

- オブジェクト・ナビゲータの「Web ソース」ノードをダブルクリックして、第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」で作成したレポート `empрева_自分のイニシャル.jsp` の Web ソースをオープンします。

5.1.1 ヘッダー・タグとボディの確認

1. Web ソース・ビューで、`<!-- Header -->` 行を見つけます。

この HTML コードはコメント行で、ファイル中のレポート・ヘッダー情報を検索するときに役立ちます。

2. 次のような、`<th>` および `<tr>` タグを見つけます。

```
<tr>
<th <rw:id id="HBEMPLOYEEID92" asArray="no" />
class="OraColumnHeader">Employee Id </th>
<th <rw:id id="HBempname92" asArray="no" /> class="OraColumnHeader"> Emp
Name </th>
...
```

5.1.2 `rw:foreach` タグとボディの確認

`rw:foreach` タグは、グループ全体でループします。このレイアウトは、指定したグループの各インスタンスで繰り返されます。

1. Web ソース・ビューで、`<rw:foreach>` JSP タグ、および次の行を見つけます。

```
<rw:foreach id="R_G_EMPLOYEE_ID921" src="G_EMPLOYEE_ID">
```

ここでは、`R_G_EMPLOYEEID` がこのループの一意の識別子で、`G_EMPLOYEE_ID` がグループで繰り返すデータ・モデル・グループです。

2. 次に示すように、終了の `</rw:foreach>` タグの後には、表を終了する `</tbody>` タグが続きます。

```
    <td <rw:headers id=HFDEPARTMENTID92" src...>
    </tr>
  </rw:foreach>
</tbody>
```

5.2 JSP コードの検証

この章を終了し、JSP が正しいことを確認する場合は、`empрева.jsp` という名前の提供されたファイルをオープンしてください。このファイルは、サンプル・ディレクトリにあります。

5.3 まとめ

お疲れ様でした。これで、第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」で追加したレポート・ブロックのソース・コードの確認が終了しました。第6章「Web レポートのグラフの作成」に進み、Web レポートにグラフを追加します。

6

Web レポートのグラフの作成

予想完了時間 : 15 分

この章では、[図 6-1](#) に示すように、グラフ・ウィザードを使用してグラフを作成し、管理者が従業員の給与を表示できるようにする方法や、特定の部門での各従業員の補償率を示す方法を説明します。

グラフ・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合は、クイック・リファレンス・ガイドとして[付録 A.3 「グラフ・ウィザードのエントリ」](#)を参照してください。

図 6-1 JSP ベースの Web レポートへのグラフの追加



6.1 Reports Builder でのレポートのソースのオープン

Reports Builder で Web ソースをオープンするには

1. オブジェクト・ナビゲータで、ファイル `emprev_自分のイニシャル.jsp` がオープンしていることを確認します。

注意： JSP ベースの Web レポートをまだ作成していない場合、`emprev.jsp` という名前の提供されたファイルをオープンします。

2. オブジェクト・ナビゲータで、レポート名の下に「Web ソース」アイコンをダブルクリックして、Web ソース・ビューでソース・コードを表示します。
3. Web ソース・ビューで、「編集」→「検索と置換」をクリックし、次のテキストを見つけて削除します。

Replace this text with the Graph in Chapter 6 of the Tutorial.

6.2 グラフ・ウィザードを使用したグラフの作成

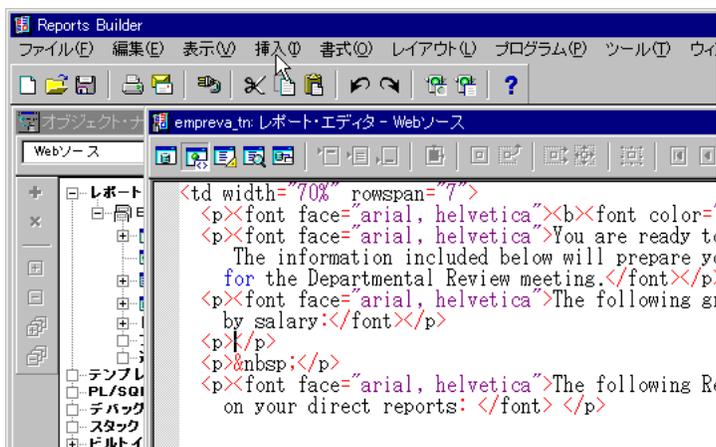
この項では、グラフ・ウィザードを使用して、グラフの JSP コードおよび XML コードを Web レポートの Web ページに挿入します。手順では、必要なグラフの種類、X 軸および Y 軸の定義を選択する方法を説明します。グラフは、第 2.2 項「データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加」で作成した問合せに基づきます。

グラフ・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合、グラフ・ウィザードのエントリについては、付録 A「クイック・リファレンス・ガイド」を参照してください。

グラフを作成するには

1. カーソルがテキストを削除した場所にあることを確認し、「挿入」→「グラフ」を選択して、グラフ・ウィザードを表示します。

図 6-2 Web ソースへのグラフの挿入



2. 「ようこそ」ページが表示される場合は、「次へ」をクリックします。
3. グラフ・ウィザードの次のページで、様々なグラフ形式を選択できます。単純なレポートとして、棒グラフを選択します。

グラフ・ウィザードで、デフォルトのグラフ・タイプ（棒グラフ）が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

4. EMPLOYEE_ID を「X 軸項目」リストに移動し、「次へ」をクリックします。

5. SALARY を「Y 軸データ」リストに移動し、「次へ」をクリックします。
6. 「レイアウト」ページで、EMPLOYEE_ID フィールドを「グループ」フィールドから「棒」フィールドにドラッグし、「次へ」をクリックします。
7. 「グラフ・タイトル」ページで、「タイトルの表示」を選択し、最初のテキスト・ボックスで「Employees by Salary」と入力して、「次へ」をクリックします。
8. 「説明の表示」が選択されていることを確認します。
9. 「位置」リストから、「右」を選択し、「次へ」をクリックします。
10. 「X 軸タイトルの表示」フィールドで、「Employees」と入力し、「次へ」をクリックします。

注意：「X 軸タイトルの表示」は、フィールドにテキストを入力すると自動的に選択されます。

11. 「Y1 軸タイトルの表示」フィールドで、「Salaries」と入力し、「次へ」をクリックします。
12. グラフ・ウィザードのページの一番下で、「行 1」の「色」をクリックし、濃いピンクなどの別のカラーを選択します。
必要に応じて、他の行のカラーも選択します。
13. 「終了」をクリックします。

注意：「終了」のかわりに「次へ」をクリックすると、グラフ・ウィザードに別のページが表示され、グラフにハイパーリンクを追加できます。このチュートリアルではグラフにハイパーリンクを使用しないので、そのまま「終了」をクリックします。グラフ・ウィザードやグラフ・ハイパーリンクの使用の詳細は、『Getting Started with Oracle Reports』の「Examples」ページを参照してください。ここで、グラフ・ハイパーリンクを使用した例が紹介されています。

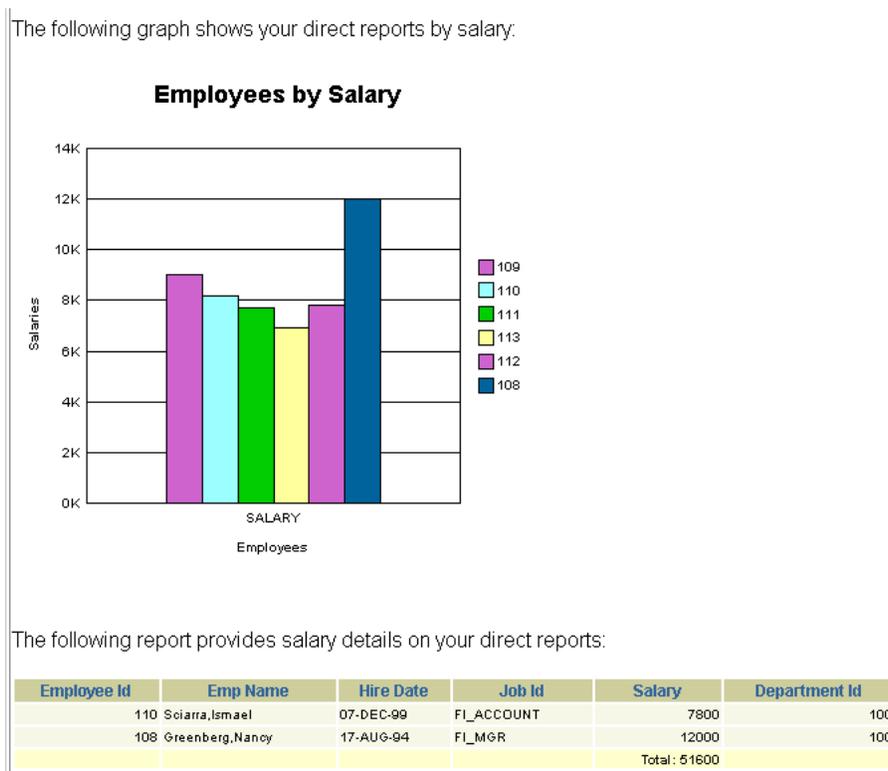
14. ツールバーの「Web レイアウトを実行」ボタンをクリックして、Web ブラウザでレポートをプレビューします。

注意：

- デフォルトのブラウザとして Netscape 7.0 を使用し、ブラウザにレポートが表示されない場合は、レジストリキー HKEY_CURRENT_USERS¥Software¥Oracle¥Toolkit¥Tkbrowser をブラウザのデフォルトの場所に設定します。BrowserName および BrowserPath のキーに正しい値が指定されていることを確認してください。たとえば、BrowserName=Netscape 7、BrowserPath=C:¥Program Files¥Netscape¥Netscape¥Netscp.exe になります。
 - 「Web レイアウトを実行」に失敗し、major.minor バージョン関連のエラーが発生する場合は、環境変数 CLASSPATH または REPORTS_CLASSPATH を次のように削除して更新する必要があります。oc4j.jar ファイルパスで 9.0.x ORACLE_HOME の指定を削除します (oc4j.jar ファイルパスでは 10g リリース 2 (10.1.2) ORACLE_HOME のみを指定してください)。
-

レポートは、次のように表示されます。

図 6-3 グラフを含む JSP ベースのレポート



6.3 新しいグラフを含むレポートの保存

別のファイル名でレポートを保存すると、チュートリアル用に提供したレポートと結果を比較できます。これにより、必要に応じて、前の章の結果に戻ることもできます。

1. 「ファイル」 → 「別名保存」を選択します。
2. 「保存」ダイアログ・ボックスで、名前を `emprevb_自分のイニシャル.jsp` に変更し、「保存」をクリックします。

6.4 まとめ

お疲れ様でした。JSP ベースの Web レポートにグラフが追加されました。この章では、グラフ・ウィザードを使用してグラフを設計し、Web レポートに追加する方法について学習しました。

結果を確認するには、第 7 章「[グラフのソース・コードの確認](#)」に進みます。

この Web レポートに JSP パラメータ・フォームを追加する方法の詳細は、『Oracle Reports レポート作成ガイド』を参照してください。このレポートを Web に配布する方法の詳細は、『Oracle Application Server Reports Services レポート Web 公開ガイド』を参照してください。

グラフのソース・コードの確認

予想完了時間:5分

第6章「[Web レポートのグラフの作成](#)」では、JSP ベースの Web レポートにグラフを追加しました。この章では、グラフに追加するソース・コードについて説明します。

7.1 Reports Builder でのソースの表示

第 6 章「Web レポートのグラフの作成」で作成したレポート `emprevb_自分のイニシャル.jsp` の Web ソース・ビューをオープンします。

7.2 rw:graph タグの確認

`rw:graph` タグはグラフ情報を囲み、グラフをデータ・ソースにリンクします。また、このタグはカテゴリやデータ・フィールドも識別します。

1. Web ソース・ビューで、`<rw:graph>` JSP タグを見つけます。

`rw:graph` タグ内のコードは XML です。

```
<rw:graph id="graph" src="G_EMPLOYEE_ID" series="EMPLOYEE_ID" dataValues="SALARY">
```

この `series` タグは、X 軸上にある値のソースを定義し、`dataValues` タグは Y 軸上にあるデータのソースを定義します。これらのパラメータは、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」で設定します。

2. `rw:graph` タグの下にある、次のような `SeriesItems` タグを見つけます。

```
<SeriesItems>
<Series id="0" color="#cc66cc"/>
</SeriesItems>
```

このタグは、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」で変更した「行 1」の「色」を示します。別のカラーを選択した場合は、`color` タグに別の値が表示されます。

3. ここで、カラー値 `#cc66cc` が X 軸上にある最初の棒に適用されることがわかります。

図 7-1 最初の行で色分けされているグラフ



4. 次のような `<Title>` タグを見つけます。

```
</SeriesItems>
<Title visible="true" text="Employees by Salary"/>
```

このタグは、次のように、Web レポートにグラフ・タイトルを追加します。

図 7-2 タイトルがあるグラフ



5. 次のような `</rw:graph>` JSP タグを見つけます。

```
</Graph>
```

```
-->
```

```
</rw:graph></p>
```

```
<p></p>
```

```
...
```

グラフを作成する XML は、終了の `</rw:graph>` JSP タグの前に終了します。

注意： グラフ・ウィザードはリエントラントです。そのため、グラフを変更する場合は、`rw:graph` タグ間の XML にカーソルを移動し、「編集」→「設定」をクリックします。グラフ・ウィザードは、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」で選択したオプションとともに表示されます。

7.3 まとめ

お疲れ様でした。新規のグラフのソース・コードを確認できました。Web レポートの作成、レポート・ブロックやデータの追加、およびグラフの作成の詳細は、Oracle Reports のオンライン・ヘルプを参照してください。

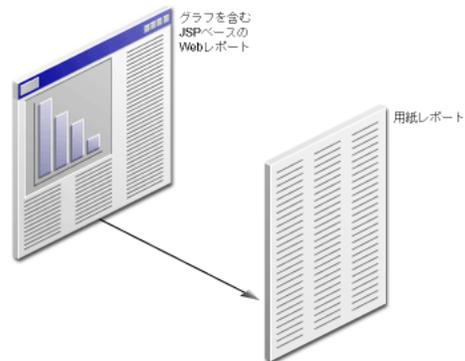
用紙レポートの出力

予想完了時間：15分

この章では、[図 8-1](#) に示すように、作成したばかりの Web レポートの用紙レポートを出力する方法を説明します。ここでは、レポート・ウィザードを使用して、[第 2 章「レポートへのデータの追加」](#) で作成したデータ・モデルでペーパー・レイアウトを作成します。

レポート・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合は、[クイック・リファレンス・ガイド](#) として、[付録 A.4「レポート・ウィザードのエントリ」](#) を参照してください。

図 8-1 JSP ベースの Web レポートのデータ・モデルからの用紙レポートの出力



8.1 データ・モデルに基づいた用紙レポートの出力

この項では、第2章「レポートへのデータの追加」で作成したデータ・モデルに基づいて、ペーパー・レイアウトを出力する方法を説明します。

注意： 使用していた同一のデータベースに接続し、Human Resources (HR) スキーマにアクセスする必要があります。データベースの接続情報がわからない場合は、データベース管理者に連絡してください。

レポート・ウィザードを使用して用紙レポートを出力するには

1. オブジェクト・ナビゲータで、第6章「Web レポートのグラフの作成」で作成したレポート empvrb_自分のイニシャル.jsp がオープンしていることを確認します。

注意： JSP ベースの Web レポートを最初に作成せずに、JSP ベースの Web レポートのペーパー・レイアウトの出力方法のみを学習したい場合は、提供されたファイル empvrb.jsp をオープンします。

2. オブジェクト・ナビゲータで、レポート名を右クリックします。
3. ポップアップ・メニューから、「レポート・ウィザード」を選択します。
4. ここでは、用紙レポートを出力するため、ペーパー・レイアウトを選択します。第3章「Web レポートのソース・コードの確認」ですでに終了しているため、Web レイアウトを選択する必要はありません。
レポート・ウィザードの「レポート・タイプ」ページで、「ペーパー・レイアウトのみ作成」ラジオ・ボタンを選択します。
5. 「スタイル」ページで「グループ上」ラジオ・ボタンが選択され、タイトルが「My Team's Salaries」であることを確認します。
6. 「データ」タブをクリックします。
第2章「レポートへのデータの追加」で作成したデータ・モデルが、「SQL 問合せ文」フィールドに表示されます。
7. 「フィールド」ページで、すべてのフィールドを「使用可能フィールド」リストに戻し、次のフィールドを選択し、「>」ボタンをクリックして「表示フィールド」リストに移動します。
 - emp_name
 - mgr_name
 - SALARY
 - SumSALARYPermgr_name
8. 「ラベル」ページの emp_name フィールドの「ラベル」フィールドで、「Employee Name」と入力します。
9. mgr_name フィールドの「ラベル」フィールドで、「Manager Name」と入力します。
10. SumSALARYPermgr_name フィールドの「ラベル」フィールドで、「Total Salary」と入力します。
11. 「テンプレート」ページで、「Beige」テンプレートが選択されていることを確認します。

12. 「終了」をクリックします。

レポートが、次のようにペーパー・デザイン・ビューに表示されます。

図 8-2 最終的な用紙レポート

YOUR Inc. COMPANY		My Team's Salaries
Manager Name Greenberg,Nancy		
Employee Name	Salary	
Faviet,Daniel	9000	
Chen,John	8200	
Sciarra,Ismael	7700	
Popp,Luis	6900	
Urman,Jose Manuel	7800	
Total Salary	39600	
Manager Name Kochharr,Neena		
Employee Name	Salary	
Greenberg,Nancy	12000	
Total Salary	12000	

13. 「ファイル」 → 「別名保存」を選択します。

14. 名前を `emprev_paper_自分のイニシャル.rdf` に変更し、`rdf` が選択されていることを確認します。

15. 「保存」をクリックします。

8.2 ペーパー・デザイン・ビューでのレポートの変更

Reports Builder では、レポートのルック・アンド・フィールを変更するための数多くのツールがペーパー・デザイン・ビューに用意されています。実際のデータを編集できるため、レポートの仕上がりを確認できます。この項では、最も一般的に使用される次のような書式設定を使用して、レポートの外観を整える方法について説明します。

- 列の位置合せ
- 書式マスクの設定
- オブジェクトの操作
- テキストの編集
- 視覚属性の変更
- データのハイライト表示
- ページ番号の挿入
- 現在の日時の挿入

ペーパー・デザイン・ビューでレポートの外観を変更するには

1. ペーパー・デザイン・ビューのツールバーにある「フレックス・オフ」ボタンをクリックします。
2. タイトルとロゴの位置を合せます。
レポート・タイトル「**My Team's Salaries**」をクリックしたまま、左へ 1.5 インチ、下へ 0.25 インチ移動します。
3. オブジェクトを選択したまま、「書式」、「フォント」の順にクリックし、「Arial」、「太字」、「12pt」を選択してテキストの書式を設定します。

ヒント： テキストがオブジェクトの領域内に収まらない場合は、テキスト・オブジェクトをもう一度クリックし、アンカーの 1 つを右にドラッグします。

- これで、レポートのタイトルは次のように表示されます。

図 8-3 書式が設定された用紙レポートのタイトル



- 「Salary」ラベルの下の数値の列をクリックします。数値がすべて選択されます。
- ツールバーで、「通貨」ボタンをクリックし、「カンマ」ボタンをクリックし、「10 進桁を追加」を2回クリックします。
- 数値を選択したまま、ツールバーの「右に整列」ボタンをクリックします。
- 「Salary」列は、次のように表示されます。

図 8-4 書式が設定された「Salary」列の数値

Salary
\$9,000.00
\$8,200.00
\$7,700.00
\$6,900.00
\$7,800.00
iharr,Neena
Salary
\$12,000.00

- 給料の数値を右揃えに設定したため、「Salary」ラベルも右揃えに設定します。
「Salary」ラベルをクリックし、ツールバーの「右に整列」ボタンをクリックします。
- 次に、「Total Salary」の数値も「Salary」の数値と同様に書式設定します。
- 「Manager Name」ラベルとマネージャの名前に空白を追加します。マネージャの名前（Greenberg,Nancy など）をクリックします。オブジェクトを選択したまま、キーボードの右矢印キーを使用してそのフィールドを右に移動します。
これで、レポートは次のように表示されます。

図 8-5 最終的な用紙レポートの仕上がり



Manager Name	Greenberg,Nancy
Employee Name	Salary
Faviet,Daniel	\$9,000.00
Chen,John	\$8,200.00
Sciarra,Ismael	\$7,700.00
Popp,Luis	\$6,900.00
Urman,Jose Manuel	\$7,800.00
Total Salary	\$39,600.00
Manager Name	Kochharr,Neena
Employee Name	Salary
Greenberg,Nancy	\$12,000.00
Total Salary	\$12,000.00

8.3 まとめ

お疲れ様でした。これで、JSP ベースの Web レポートで作成したデータ・モデルに基づいて、用紙レポートを出力しました。この章では、次の手順を学習しました。

- 既存の JSP ベースの Web レポートでレポート・ウィザードをオープンする。
- レポートにペーパー・レイアウトを作成する。
- Web レポートの用紙レポートを出力する。
- 用紙レポートが見やすくなるように書式を設定する。

既存のデータ・モデルに基づいた用紙レポートの出力の詳細は、Oracle Reports のオンライン・ヘルプを参照してください。

クイック・リファレンス・ガイド

この付録には、Reports Builder の各ウィザードで入力するエントリを示す表が記載されています。これらの表は、クイック・リファレンス・ガイドとして作成され、今後の使用時や、Reports Builder の各ウィザードをよく理解している場合に利用できます。

A.1 データ・ウィザードのエントリ

表 A-1 は、第 2 章「レポートへのデータの追加」でデータ・ウィザードに作成するエントリを示します。

表 A-1 データ・ウィザードの入力

データ・ウィザードのページ	フィールド	入力
問合せ	名前	Employee Salaries
データ・ソース	SQL Query	
データ	SQL 問合せ文	次のファイルから SQL を貼り付ける < サンプル・ファイル >/tutorial_sql.txt
	接続	DBA から適切な接続文字列を入手する
グループ	グループ・フィールド	MGR_NAME
合計	「合計」フィールド	Sum(SALARY)

A.2 レポート・ブロックのエントリ

表 A-2 は、第 4 章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」でのレポート・ブロックのエントリを示します。

表 A-2 レポート・ブロックのレポート・ウィザードの入力

レポート・ブロック・ウィザードのページ	フィールド	入力
タイトル	タイトル	My Team's Salaries
タイプ	グループ上	選択
グループ	使用可能グループ	G_EMPLOYEE_ID、下
表示フィールド	使用可能フィールド	すべてのフィールド (すべてのフィールドを「表示」に移動する)
合計		なし
テンプレート	事前定義テンプレート	Beige

A.3 グラフ・ウィザードのエントリ

表 A-3 は、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」でグラフ・ウィザードに作成するエントリを示します。

表 A-3 グラフ・ウィザードの入力

グラフ・ウィザードのページ	フィールド	入力
タイプ	タイプ	縦棒グラフ
X 軸項目	使用可能な列	EMPLOYEE_ID および MGR_NAME を「X 軸項目」に移動する
Y 軸データ	使用可能な列	SALARY を「Y 軸データ」に移動する
レイアウト	「グループ」フィールド	EMPLOYEE_ID を「グループ」フィールドから「棒」フィールドにドラッグする
タイトル	タイトルの表示	「タイトルの表示」を選択し、「Employees by Salary」と入力する

表 A-3 グラフ・ウィザードの入力 (続き)

グラフ・ウィザードのページ	フィールド	入力
凡例	説明の表示	選択
X 軸	X 軸タイトルの表示	「X 軸タイトルの表示」を選択し、「Employees」と入力する
Y 軸	Y 軸タイトルの表示	「Y 軸タイトルの表示」を選択し、「Salaries」と入力する
凡例オプション	「行 1」の「色」	別のカラーを選択する

A.4 レポート・ウィザードのエントリ

表 A-4 は、第 8 章「用紙レポートの出力」でのレポート・ウィザードのエントリを示します。

表 A-4 用紙レポートのレポート・ウィザードの入力

レポート・ウィザードのページ	フィールド	入力
レイアウト	ペーパー・レイアウトのみ作成	選択
タイプ	グループ上	選択
グループ	使用可能グループ	(変更しない)
表示フィールド	使用可能フィールド	emp_name mgr_name SumSALARYPermgr_name SALARY
合計		(変更しない)
ラベル	すべてのラベル	ラベルを適切な値に変更する
テンプレート	事前定義テンプレート	Beige

ツール・パレットとツールバーのリファレンス

この付録では、Reports Builder のツール・パレットとツールバーのボタンおよびツールについて説明します。

B.1 メイン・ツールバー

メイン・ツールバーは Reports Builder ウィンドウの最上部、メニュー・バーの直下にあります。

図 B-1 メイン・ツールバー



「新規」ボタン。「新規レポート」ダイアログ・ボックスを表示します。



「開く」ボタン。「開く」ダイアログ・ボックスを表示します。



「保存」ボタン。レポートを保存します。レポートを新規に保存する場合は、「別名保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。



「印刷」ボタン。用紙レポートを印刷します。



「メール」ボタン。「メール」ダイアログ・ボックスを表示します。



「接続」ボタン。「接続」ダイアログ・ボックスを表示します。



「切り取り」ボタン。現在選択しているアイテムを削除し、それを一時的にクリップボードに格納します。選択したアイテムを貼り付ける場合は、「貼付け」を使用します。



「コピー」ボタン。選択したアイテムのコピーを一時的にクリップボードに格納します。選択したアイテムを貼り付ける場合は、「貼付け」ボタンをクリックします。



「貼付け」ボタン。クリップボードに格納されているアイテムを、現行のカーソル位置に貼り付けます。



「元に戻す」ボタン。最後に実行した操作を元に戻します。



「再実行」ボタン。最後の操作を再び実行します。



「Web レイアウトを実行」ボタン。現行のレポートを Web ブラウザで実行します。



「ペーパー・レイアウトを実行」ボタン。現行のレポートを Reports Builder のペーパー・デザイン・ビューで実行します。



「ヘルプ」ボタン。Oracle Reports のオンライン・ヘルプを表示します。

B.2 データ・モデル・ビューのツール・パレット

データ・モデル・ビューのツール・パレットは、データ・モデル・ビューの左側に縦に並べられたツールの集合です。



「選択」ツール。選択されているツールを選択解除し、現行のツールを無効にします。



「拡大」ツール。クリックしたオブジェクトの表示を拡大します。表示を縮小する場合は、**[Shift]** キーを押しながら「拡大」をクリックします。



「サマリー列」ツール。問合せにサマリー列を作成します。



「データ・リンク」ツール。問合せに列間のリンクを作成します。



「式列」ツール。問合せに計算式列を作成します。

a×b

「クロス積」ツール。マトリックス（クロス積）グループを作成します。



「プレースホルダ」ツール。後で変更できるプレースホルダ列を作成します。



「SQL 問合せ」ツール。「SQL 問合せ文」ダイアログ・ボックスを表示します。これにより、SQL 問合せの SELECT 文を入力することも、Query Builder を使用して問合せを作成することもできます。



「REF カーソル」ツール。PL/SQL エディタを表示します。これにより、REF カーソル問合せを入力できます。



「XML Query」ツール。「XML 問い合わせの定義」ダイアログ・ボックスを表示します。これにより、XML データ定義およびデータ・ソースを指定できます。



「JDBC Query」ツール。「JDBC Query」ダイアログ・ボックスを表示します。これにより、SQL またはストアド・プロシージャを定義して問合せのデータを定義できます。



「Text Query」ツール。「Text Query」ダイアログ・ボックスを表示します。これにより、テキスト・データ定義およびデータ・ソースを指定できます。



「OLAP Server Query」ツール。「OLAP Server Query」ダイアログ・ボックスを表示します。これにより、Oracle OLAP Server データ定義およびデータ・ソースを指定できます。

B.3 ペーパー・レイアウト・ビューのツール・パレット

ペーパー・レイアウト・ビューのツール・パレットは、ペーパー・レイアウト・ビューの左側に縦に並べられたツールの集合です。



「選択」ツール。選択されているツールを選択解除し、現行のツールを無効にします。



「拡大」ツール。クリックしたオブジェクトの表示を拡大します。表示を縮小する場合は、[Shift] キーを押しながら「拡大」をクリックします。



「枠選択」ツール。明示的なアンカーに応じて（最初にツールをクリックしてから、枠をクリックして表示）、選択した枠または繰り返し枠内のすべてのオブジェクトを選択します。



「形変更」ツール。選択したボイラープレート・オブジェクトの形状を変更できます。



「テキスト」ツール。ボイラープレート・テキスト・オブジェクトを作成します。



「回転」ツール。選択したボイラープレート・オブジェクトの向きを回転できます。



「線」ツール。線のボイラープレート・オブジェクトを描画します。



「四角形」ツール。四角形のボイラープレート・オブジェクトを描画します。



「円弧」ツール。円弧のボイラープレート・イメージを描画します。



「丸い四角形」ツール。丸い四角形のボイラープレート・オブジェクトを描画します。



「折れ線」ツール。複数の折れ線で、閉じられていないボイラープレート・オブジェクトを描画します。複数の線を描画するには、マウスを使用します。



「多角形」ツール。多角形のボイラープレート・オブジェクトを描画します。折れ線のオブジェクトとは異なり、オブジェクトは閉じられています。



「手書き」ツール。マウスをドラッグして線を描画します。



「楕円」ツール。楕円のボイラープレート・オブジェクトを描画します。



「枠」ツール。枠を描画します。



「繰返し枠」ツール。繰返し枠を描画します。



「グラフ」ツール。グラフ・ウィザードを表示します。これにより、レイアウトに挿入するグラフを定義できます。



「フィールド」ツール。フィールド・オブジェクトを作成します。



「**アンカー**」ツール。レイアウト内の2つのオブジェクト間にアンカーを作成します。



「**ファイル・リンク**」ツール。外部ファイルをレポートにリンクする際に使用するリンク・ファイル・オブジェクトを作成します。



「**レポート・ブロック**」ツール。レポート・ブロック・ウィザードを表示します。これにより、レイアウトに新規レポート・ブロックを追加できます。

用語集

AFM

Adobe Font Metrics の略称。AFM ファイルと PPD ファイルは、Adobe 社およびプリンタのベンダーによって提供される。これらのファイルにはプリンタに関する情報が含まれている。他のパラメータとともに、これらのファイルから、Oracle Reports で使用するプリンタで使用可能なフォントについての情報が読み取られる。PPD ファイルにリストされているすべてのフォントについて、対応する AFM ファイルがそのフォント名に従って検索され、使用可能な AFM のあるすべてのフォントがロードされる。

CGI

Common Gateway Interface の略称。Web サーバーと CGI プログラムの間で情報を転送するための標準。CGI では、HTTP リクエストの一部として引数をプログラムに渡す方法が指定されるとともに、プログラムで使用できる環境変数のセットが定義される。これにより、ブラウザに戻す出力がプログラムによって生成される。CGI では、Web サーバーとユーザー間の動的な対話を可能にするためにサーバー・サイド処理が提供される。

HTML

HyperText Markup Language の略称。インターネット上の Web サーバーの他のドキュメントに対するコンテンツとリンクの指定に使用される、タグ・ベースの ASCII 言語。エンド・ユーザーは、Web ブラウザで HTML ドキュメントを表示し、リンクに従って他のドキュメントを表示する。

HTTP

HyperText Transfer Protocol の略称。Web ブラウザのコンピュータとアクセス先の Web サーバーとの間の Web トラフィックの伝送に使用されるプロトコル。

IANA

Internet Assigned Numbers Authority の略称。インターネット全体の新しい IP アドレスの割当てを管理する、Internet Architecture Board (IAB) の下位組織。IANA 定義のキャラクタ・セットとは、charset タグに対して定義でき、インターネットで使用可能なキャラクタ・セットのことを指す。

J2EE

Java 2 Platform, Enterprise Edition の略称。Java でエンタープライズ・アプリケーションを開発および配布するための環境。Web ベースの重層的なアプリケーションの開発を支援する一連のサービス、アプリケーション・プログラミング・インタフェースおよびプロトコルで構成される。

JAR

Java ARchive の略称。多数のファイル (Java クラス・ファイルやイメージなど) を 1 つのファイルに統合するために使用されるファイル。

Java

コンピュータ言語。インターネット用のプログラミングを、プラットフォームに依存しない「サーブレット」または「アプレット」の形でサポートする。

JSP

JavaServer Page の略称。JSP テクノロジは、Sun 社の Java サーブレットを拡張したテクノロジであり、簡単なプログラミング手法により Web ページ上に動的コンテンツを表示できる。JSP はサーバー・サイド・テクノロジである。JSP は、Web サーバーまたはアプリケーション・サーバーで実行される Java ソース・コードが埋め込まれた HTML ページである。HTML は Web ブラウザに返されるページ・レイアウトを提供し、Java はビジネス・ロジックを提供する。

Oracle Application Server (OracleAS)

ネットワーク・アプリケーションを配置する戦略的なプラットフォーム。アプリケーション論理をアプリケーション・サーバーに移動し、ネットワーク・クライアントを実行することにより、組織は、複雑さの改善、操作性の向上および開発と実行の簡便性の向上を通して、実質的な利益を得られる。OracleAS は、データベースの Web 配布の簡便化、および従来のクライアント・サーバー・アーキテクチャから、ネットワーク・アプリケーション・アーキテクチャへの移行を通じてのレガシーの完全統合を実現する、ビジネスにおいては非常に重要なプラットフォームである。

Oracle Developer Suite

最新の Oracle アプリケーション開発ツールとビジネス・インテリジェンス・ツールを 1 つにして組み込んだ統合製品。Java や XML などのインターネット標準に基づき、この製品は、Oracle Application Server および Oracle データベース向けのアプリケーション構築に、生産性の高い開発環境を提供する。

OracleAS Portal

ブラウザ・ベースの開発ツールで、スケーラブルでセキュアかつ拡張可能な HTML アプリケーションや Web サイトの構築に使用する。OracleAS Reports Services では、OracleAS Portal を使用して、レポート要求、セキュア・サーバー、およびレポート出力の印刷に使用する OracleAS Reports Services プリンタに関する情報を格納し、Web 上に公開されたレポートへのエンド・ユーザー・アクセスを制御する。

OracleAS Reports Services

「[Reports Services](#)」を参照。

ORACLE_HOME

一部のディレクトリ・ベースのオペレーティング・システムにおける、Oracle のディレクトリ階層の最上層の別名。Oracle 製品のルート・ディレクトリを示す環境変数。

このディレクトリは、`ORACLE_HOME` を次の構文で指定すると参照できる。

UNIX の場合：`$ORACLE_HOME`

Windows の場合：`%ORACLE_HOME%`

PDF

Portable Document Format の略称。ドキュメントの作成に使用された元のアプリケーション・ソフトウェア、ハードウェアおよびオペレーティング・システムに依存せずにドキュメントを表現する (Adobe Acrobat に固有の) ファイル形式。PDF ファイルは、テキスト、グラフィックおよびイメージのあらゆる組合せが入ったドキュメントを、デバイスや解像度から独立した形式で表現できる。

PL/SQL

SQL 言語に対する Oracle 専用の拡張。SQL に対しアプリケーションの記述に適するようにプロシージャ型構成体やその他の構成体を追加している。

PPD

PostScript Printer Definition の略称。PPD ファイルと AFM ファイルは Adobe 社およびプリンタのベンダーによって提供される。これらのファイルにはプリンタに関する情報が含まれている。他のパラメータとともに、これらのファイルから、Oracle Reports で使用するプリンタで使用可能なフォントについての情報が読み取られる。PPD ファイルにリストされているすべてのフォントについて、対応する AFM ファイルがそのフォント名に従って検索され、使用可能な AFM のあるすべてのフォントがロードされる。

RDF ファイル (RDF file)

バイナリ形式の単一のレポート定義を含むファイル。RDF ファイルは、レポートの実行と編集の両方に使用される。

Reports Cache

OracleAS Reports Services のコンポーネント。完了したジョブの出力を格納する。

Reports CGI (rwcgi)

注意： Oracle Reports 10g では、Reports CGI (rwcgi) は非推奨になりました (下位互換性を確保するためのみ維持)。かわりに Reports JSP、rwservlet (Reports Servlet) または Reports Web サービスを使用してください。

Web サーバーまたは J2EE コンテナ (OC4J など) と Reports Server 間の情報の変換および配布を処理する Oracle Reports の実行可能ファイル。Common Gateway Interface (CGI) または Reports Web カートリッジとも呼ばれる。これにより、Web ブラウザからレポートを動的に実行できる。

Reports Client (rwclient)

リモートの Reports Server (rwserver) にレポートを送信するためのコマンドライン・インタフェースを提供する Oracle Reports の実行可能ファイル。

Reports Engine

データ・ソースからのデータのフェッチ、レポートのフォーマット、キャッシュへの出力の送信、および Reports Server へのジョブ準備完了通知の送信を実行する、OracleAS Reports Services のコンポーネント。

Reports Queue Manager (rwrqm)

(Windows のみ) Reports Server (rwserver) で管理されるレポート・ジョブのタイムスタンプと状態情報を維持する。

Reports Runtime (rwrn)

OracleAS Reports Services のインプロセス Reports Server を使用してレポートを実行する Oracle Reports の実行可能ファイル。

Reports Services

Reports Developer アプリケーションのランタイム環境。OracleAS Reports Services では、レポートを実行、配布および公開して、企業全体で統一されたレポートを作成する。OracleAS Reports Services を使用してレポートを配布すると、柔軟性の向上、時間短縮および処理容量の増大につながる。

Reports Servlet (rwservlet)

Web サーバーまたは J2EE コンテナ (OC4J など) と Reports Server 間の情報の変換および配布を処理する OracleAS Reports Services のコンポーネント。これにより、Web ブラウザからレポートを動的に実行できる。

REP ファイル (REP file)

バイナリ形式の単一のレポート定義を含むファイル。REP ファイルはレポートの実行にのみ使用され、編集はできない。

Reports Builder (rwbuilder)

設計時のユーザー・インタフェースを提供する Oracle Reports の実行可能ファイル。これにより、レポート開発者はレポート定義を作成および維持できる。

Reports Server (rwserver)

レポートを実行、配布および公開するためのレポート・サービスを提供する Oracle Reports の実行可能ファイル。これにより、企業全体で統一されたレポートの生成が可能になる。ユーザーの認証、スケジューリング、キャッシングおよびレポート配布などのクライアント要求を処理する OracleAS Reports Services のコンポーネント。rwservlet、Reports JSP、CGI、rwclient などの Oracle Reports クライアントを使用して Reports Server にレポートを送信する。

SELECT 文 (SELECT statement)

1 つ以上の表またはビューから、どの行と列をフェッチするかを指定する SQL 文。

SQL

リレーショナル・データベースにおける情報の格納と検索のための標準インタフェース。SQL は、Structured Query Language (構造化問合せ言語) の略称。

SQL スクリプト (SQL script)

データベース管理を素早く簡単に行う SQL 文を含むファイル。SQL スクリプトの一部は、Oracle 製品に付属している。

SQL ファイル (SQL file)

テキスト形式 (ASCII や EBCDIC など) で格納された問合せを含むファイル。

SQL 文 (SQL statement)

Oracle に対する SQL の指示。SELECT 文は、SQL 文の一種。

URL

Uniform Resource Locator の略称。インターネット上で有効なリソースの位置を表す簡潔な文字列表記。また、これは OracleAS への要求をエンコードするためにクライアントで使用するテキスト文字列の形式でもある。

Web サーバー (Web server)

リモート Web ブラウザの HTTP リクエストに回答して Web ページを送信する、Web サイトで稼働しているサーバー・プロセス (HTTP デーモン)。

Web ソース・ビュー (Web Source view)

レポートの HTML または JSP ソースを表示するレポート・エディタのビューの 1 つ。このビューを使用して、レポート・ブロック・ウィザードやグラフ・ウィザードで、Web ページに動的コンテンツを追加できる。経験を積んだ Java 開発者は、このビューで直接 Web ソースを編集できる。

Web ブラウザ (Web browser)

エンド・ユーザーが (Web サーバーによりサービスされる) コンピュータ上に保管されている HTML ドキュメントおよびプログラムを読むために利用するプログラム。

XML

Extensible Markup Language の略称。SGML を使用して、データを定義および構築するメタ言語。Reports Builder は、XML 出力をサポートして、Web 公開、およびサードパーティのアプリケーションとの電子データ交換を可能にする。また、XML を使用して、実行時に他のレポート定義とマージすることができるレポート定義を作成することも、別々に実行するレポート定義を作成することもできる。

アイコン (icon)

ウィンドウやツールのグラフィック表示。

イメージ (image)

アプリケーションに格納およびロードできるビットマップ・オブジェクト。クライアントは、インポートされたイメージを変更できない。

イントラネット (intranet)

内部的な TCP/IP ネットワークで、これに対するアクセスは（ファイアウォールにより）企業や組織内の人物に制限されている。イントラネットはインターネットで提供されるサービスと類似したものを組織内に提供するが、インターネットに接続される必要はない。企業内で情報やアプリケーションを配布するために、内部ネットワーク上に 1 つ以上の Web サーバーを設定するのはイントラネットの一般的な例である。

ウィザード (wizard)

共通して実行されるタスクのためのステップごとのインタフェース。Reports Builder のウィザードは次のとおり。

- レポート・ウィザード: 基本的な用紙レポートや Web レポートを作成するときの手順を示す。ウィザードの各ページでは、初期レポート作成に使用する情報を入力する。
- データ・ウィザード: 多重問合せデータ・モデルの問合せを簡単に定義または変更できる。
- グラフ・ウィザード: 実際の 3D グラフなど、各種のチャートやグラフを追加する。Oracle BI グラフ Bean により、Reports Builder に実装される。
- レポート・ブロック・ウィザード: スタティック HTML ページにデータを追加できる。

エディタ (editor)

「[ビュー](#)」を参照。

オブジェクト (object)

1. レイアウト上に配置できる項目。オブジェクトの例として、四角形、線、楕円、円弧、多角形、折れ線、丸い四角形、手書き、チャート、テキスト、記号、テキスト・フィールドなどがある。
2. Oracle データベースでは、オブジェクト・タイプのインスタンス。オブジェクトは、オブジェクト表内の行であることも、リレーショナル表内の列オブジェクトに含まれる行の一部であることもある。

オブジェクト・ナビゲータ (Object Navigator)

階層で表示される参照および編集用のインタフェース。これにより、アプリケーション・オブジェクトを素早く簡単に検索および操作できる。次のような機能が含まれる。

- インデントと展開可能なノード（最上位ノードはモジュール・タイプ、データベース・オブジェクトおよび組込みパッケージを示す）で表示される階層により、オブジェクトの作成、編集、名前の変更、削除などのタスクが可能。
- 検索フィールドおよびアイコンにより、任意のレベルのノードまたはノード内の個々の項目を対象とした順方向検索と逆方向検索が可能。
- 一般的な「ファイル」メニュー機能を実行する水平ツールバーのアイコン。

外部キー (foreign key)

別の表の主キーを参照する 1 つの表の値または列。

行 (row)

表内の複数のフィールド値のセット。たとえば、EMP 表の例では 1 人の従業員に関するフィールドを表す。

繰返し枠 (repeating frame)

グループに対してフェッチされるデータ行の表示に使用されるレイアウト・オブジェクト。

グループ (group)

1. Reports Builder では、問合せで選択したすべての列を含めるために自動的に作成されるか、レポートに出現するデータの階層を変更するためにユーザーが作成するデータ・モデル・オブジェクト。主にレポート内にブレイクを作成する場合や、計算をリセットする場合に使用する。
2. 複数のオブジェクトで構成されるオブジェクト。

計算式列 (formula column)

PL/SQL ファンクションまたは式、SQL 文、あるいはこれらの組合せからデータを取得するユーザー作成の列。

サーブレット (servlet)

通常、データベースへのアクセスまたは E-Commerce 処理の実行を目的として Web サーバーまたはアプリケーション・サーバー上で実行され、サーバー・サイド処理を提供する Java アプリケーション。サーブレットは Java で記述されるため、サーバーとオペレーティング・システム間で移植が可能。

Reports Servlet (rwservlet) および JSP は、カスタム (JSP) レポート・タグの処理、および Oracle HTTP Server と Reports Server 間の情報の配布を実行する OracleAS Reports Services のコンポーネント。

書式マスク (format mask)

フィールドの値の外観を定義する設定。たとえば、書式マスクを使用して通貨や日付の表示を指定できる。

スキーマ (schema)

関連するデータベース・オブジェクトの集合。通常はデータベース・ユーザー ID 別にグループ分けされる。スキーマ・オブジェクトには、表、ビュー、順序、ストアド・プログラム・ユニット、シノニム、索引、クラスタ、データベース・リンクなどが含まれる。

スタイル・シート (style sheet)

HTML ドキュメントで、より柔軟なフォーマットを提供する HTML の拡張機能。スタイル・シートを利用する HTML ドキュメントを表示するには、スタイル・シートをサポートするブラウザで表示する。

ダイアログ・ボックス (dialog box)

操作を完了するために必要な情報の入力を求める、部分的な画面またはウィンドウ。

ツール (tool)

アプリケーションのオブジェクトの作成および操作に使用するアイコン・ボタン。

ツールバー (toolbar)

製品コマンドを実行するアイコン・ボタンの集合。通常、ウィンドウの一番上に沿って水平に並んでいるか、横に垂直に並んでいる。

ツール・パレット (tool palette)

ユーザー・インタフェースにアイコン・ボタンで表示されるツールの集合。これにより、レポート開発者はペーパー・レイアウト・ビューで四角形を描画したり、データ・モデル・ビューで問合せを作成するなどのタスクを実行できる。

データ・ソース (data source)

問合せで返すデータのソース。たとえば、表、ビュー、シノニム、スナップショット、およびビューとして格納される問合せなどのデータベース・オブジェクト。OracleAS Reports Services では、どのデータ・ソースにもアクセスできる。

Oracle Open Client Adapter (OCA) にかわり、プラグgable・データ・ソース (PDS) アーキテクチャが新たに採用された。また、Oracle Reports 10g では、Open Database Connectivity (ODBC) ドライバはサポートされていない。ただし、プラグgable・データ・ソースの1つである Java Database Connectivity (JDBC) を使用すると、JDBC-ODBC ブリッジを介して他のデータ・ソースにアクセスできる。

データベース (database)

1. ユニットとして扱われる、1組のディクショナリ表とユーザー表。
2. (Oracle OLAP Server) データを編成、格納および操作するオブジェクトを含む単一のファイル (拡張ファイルが付属する場合もあり)。OLAP Server では、このようなオブジェクトの例として、変数、ディメンション、式、モデルおよびプログラムがある。

データ・モデル (data model)

データ・ソースからどのデータをフェッチするか、どの値を計算するか、データをレポート内でどのように順序付けるかを定義するリレーショナル・モデル。データ・モデルを定義する Reports Builder オブジェクトは、問合せ、グループ、列、パラメータ、リンクである。

データ・モデル・ビュー (Data Model view)

レポートのデータを構造的に表示するレポート・エディタのビューの1つ。このオブジェクトは、レポート出力に表示されないが、構造体でレイアウト・スタイルが決定され、データ・オブジェクトはレイアウト・オブジェクトに表示される値を提供する。

ディテール問合せ (detail query)

マスター / ディテール・レポートの定義時に、マスターまたは親の問合せによって取得された各レコードに対し、ディテール問合せは関連するすべてのレコードを取得する。

テンプレート (template)

共通スタイルおよび標準を含む骨格となる定義で、グラフィックを含むこともある。テンプレートは、洗練されたルック・アンド・フィールを備えたレポートを簡単かつ短時間で開発可能にする標準形式を提供する。

テンプレート・エディタ (Template Editor)

テンプレートのオブジェクトやフォーマット・プロパティを定義できる作業領域。これは、レポート・エディタのペーパー・レイアウト・ビューと類似している。マージン領域ではオブジェクト (ページ番号、テキストおよびグラフィックなど) を作成、削除および変更できる。ボディ領域ではオブジェクトを作成および削除できないが、プロパティ・インスペクタではボディ・オブジェクトのプロパティを変更できる。

問合せ (query)

データベースの1つ以上の表またはビューから検索するデータを指定する、SQL SELECT 文。

ハイパーリンク (hyperlink)

あるドキュメントの特定のポイントから、別のドキュメント (の特定のポイント) または同じドキュメント内の別の場所を示す参照 (リンク)。Web ブラウザ上のハイパーリンクは通常、他とは異なる方法で表示される (別の色、フォントまたはスタイル)。ユーザーがハイパーリンクを起動すると (マウスでクリックすると)、そのリンクの参照先がブラウザに表示される。

ビュー (view)

1. Reports Builder では、レポート・データ・モデル、レイアウトまたはパラメータ・フォームの定義など、一連の特定のタスクを実行する作業領域。
2. 仮想表。その行はデータベースに実際には存在しないが、データベースに物理的に格納されている表に基づいている。

表 (table)

リレーショナル・データベースまたはサーバーで行と列から構成される 2 次元の格子に格納される、関連する情報の名前付き集合。

表形式 (tabular)

ページの最上部にラベルを表示し、ラベルの下にデータ行を表示するデフォルト・レイアウト。

フィールド (field)

1. その中でデータの入力、編集および削除が可能なインタフェース要素。
2. 特定の問合せ列のデータがどのように表示されるかを定義するレイアウト・オブジェクト。

フォーマット・トリガー (format trigger)

オブジェクトのフォーマット属性を動的に変更できる PL/SQL ファンクション。

プロパティ・インスペクタ (Property Inspector)

オブジェクト・ナビゲータ、レポート・エディタおよびテンプレート・エディタで現在選択されているオブジェクトのプロパティを表示、検索および設定できるウィンドウ。Reports Builder オブジェクト (問合せ、グループ、枠、パラメータなど) にはすべて対応するプロパティがあり、プロパティ・インスペクタを使用して表示できる。プロパティ・インスペクタには次の機能がある。

- 展開および縮小が可能なノード
- 配置されたプロパティの編集
- 検索機能
- 複数選択
- 複合的なプロパティ・ダイアログ
- プロパティ・インスペクタの複数インスタンスを起動する機能

プロパティのヘルプを表示するには、プロパティ・インスペクタのプロパティをクリックし、[F1] キーを押す。

ペーパー・デザイン・ビュー (Paper Design view)

レポート・エディタのビューの 1 つ。用紙レポートの出力を表示し、ペーパー・レイアウト・ビューを起動しなくても、間隔、フィールドのフォーマット、カラー、テキスト編集など、レイアウトで一般的に必要とされる単純な変更の多くを実行可能にする。

ペーパー・パラメータ・フォーム・ビュー (Paper Parameter Form view)

実行時にランタイム・パラメータ・フォームへのパラメータ値の入力を可能にする、パラメータ・フォームのレイアウトを表示する。

ペーパー・レイアウト・ビュー (Paper Layout view)

レポート・エディタのビューの 1 つ。用紙レポートのレイアウト・オブジェクトを表示し、レイアウト・オブジェクトを変更できるようにする。レイアウト・オブジェクトにはすべて、プロパティ・インスペクタを使用して変更できるプロパティがある。レイアウト・オブジェクトの階層は、データ・モデルで決定される。

マージン (margin)

レポート・セクション（ヘッダー、メインまたはトレーラ）の各論理ページの最上部と最下部に表示されるオプションのレポート領域。マージンには任意のレイアウト・オブジェクトを挿入できるが、通常はボイラプレートやフィールド（ページ番号、ページ合計、総計および現行の日時）が挿入される。

無効 (disabled)

メニュー項目、ボタンなどを現行のコンテキストで使用できない（キーボードやマウスからの入力に反応しない）インタフェース要素の状態。

有効 (enabled)

メニュー項目、ボタンなどを現行のコンテキストで使用できる（キーボード、カーソルまたはマウスからの入力に反応する）インタフェース要素の状態。

ランタイム・パラメータ・フォーム (Runtime Parameter Form)

実行時にオプションで表示される画面またはウィンドウ。これにより、ユーザーはレポートを実行する前に印刷オプションやパラメータを変更できる。

レイアウト (layout)

「[ペーパー・レイアウト・ビュー](#)」を参照。

レコード (record)

SQL SELECT 文でフェッチされる 1 行。

列 (column)

1. データの特定のドメインを表す、データベース表内の垂直方向の領域。列には列名（ENAME など）があり、特定のデータ型（CHAR など）を持っている。たとえば、従業員情報の表で従業員名のすべてが 1 つの列を構成するなど。レコード・グループ列は、データベースの列を意味する。
2. 問合せの SELECT リスト内の列のそれぞれの式に対し自動的に作成されるか、集計や式を実行したりプレースホルダとして稼働するために手動で作成されるデータ・モデル・オブジェクト。
3. エンティティの属性の表示。

レポート・エディタ (Report Editor)

Web および用紙レポートのデータ・オブジェクトやレイアウト・オブジェクトを扱うための各種ビューが表示される Reports Builder のウィンドウ。ビューには次のものがある。

- [データ・モデル・ビュー](#)
- [ペーパー・レイアウト・ビュー](#)
- [ペーパー・デザイン・ビュー](#)
- [ペーパー・パラメータ・フォーム・ビュー](#)
- [Web ソース・ビュー](#)

枠 (frame)

他のレイアウト・オブジェクトを囲み、複数のオブジェクトのフォーマット、頻度および配置を同時に制御するために使用するレイアウト・オブジェクト。

索引

H

HTML

Reports Builder での Web ページのオープン, 2-2

J

JavaServer Pages, 6-4

保存, 2-6

JSP

JSP レポートの保存, 2-6

グラフの追加, 6-1

保存, 6-4

R

Reports JSP タグ

rw

foreach タグ, 5-2

graph タグ, 7-2

seriesItem, 7-2

ヘッダー・タグ, 5-2

rw

foreach タグ

確認, 5-2

graph タグ

確認, 7-2

S

seriesItem タグ

確認, 7-2

W

Web ソース

グラフの確認, 7-1

レポート・ブロックの確認, 5-1

Web ページ

Reports Builder でのオープン, 2-2

あ

ウィザード (wizard)

用語集, 用語集 -5

か

概要, 1-1

グラフ

JSP への追加, 6-1

Web ソースの確認, 7-1

グラフ・ウィザード

使用, 6-2

用語集, 用語集 -5

さ

シナリオ, 1-1

た

データ

Web レポートへの追加, 2-3

レポートへの追加, 2-1

データ・ウィザード

使用, 2-3

用語集, 用語集 -5

データ・モデル

Web レポートおよび用紙レポートでの使用, 8-1

作成, 2-1, 2-3

は

ヘッダー・タグ

確認, 5-2

保存, 6-4

JSP ベースの Web レポート

保存, 6-4

や

用紙レポート

作成, 8-1

ら

レポート

JSP で保存, 2-6

用紙レポートの作成, 8-1

レポート・ウィザード

使用, 8-2

用語集, 用語集 -5

レポート・ブロックの追加, 4-1

レポート・ブロック

Web ソースの確認, 5-1

追加, 4-1

レポート・ブロック・ウィザード

用語集, 用語集-5